

第十五章 道央編

第 44 日目 (9 月 1 日(月))

台風 10 号により 日高本線 一部区間不通 代行 バス で乗車

夕張駅 男 3 人組 同じ行動している 今夜の寝るところを模索中

東室蘭-苫小牧-静内-様似-苫小牧-札幌-岩見沢-追分-夕張-追分

北海道の初日は、ぐっすりと眠れ今朝も目覚めは良かった。

今日から 9 月ということも加わり、旅への挑戦意欲は衰えることはなかった。

暦の上では今日は 210 日であるが、この旅は今日で 44 日目に入った。

今日の予定は日高本線を乗車であるが、その前に室蘭本線の支線に乗る。

この支線は東室蘭駅から終点の室蘭駅までの 7.0 Km と短い盲腸線であるが、ここが本来の室蘭本線の原点である。

途中に御崎「みさき」駅があったが、車窓からここが室蘭本線発祥の地の石碑が見えた。

また、御崎口「みさきぐち」駅があったことを思い出すが、何とこの近くではなく山陰の境線にあった。

次の駅は母恋「ぼこい」駅であり、毎年、5 月の母の日には多くの記念きっぷを買い求める人でいっぱいになるらしい。

急に昨年亡くした母を思い出して、「 かあさんの歌」を口づさんでしまうのであった。

かあさんが 夜なべをして 手袋編んでくれた……

母の付く駅はここだけで、父の付く駅は無く、かろうじて秩父別があり、父の存在価値は薄かった。

しかし、秩父別「ちっぴべつ」駅は文字通り、父とは別の駅であると思った。

母は恋しがれるが、父が恋しがれると言う話は悲しいけれど聞いたことがなかった。

父であり亭主でもある小生には“ 亭主留守で元気が良い ” であり、今日も元気に旅に出るのである。

「留守をする」で

「るすをする」と言う回文でもあったのを思い出した。

小生は留守ではなく、日本各地・長期移動型の別居生活であった。

この母恋駅で、恋山形駅「智頭急行」駅、恋路駅「のと鉄道」駅と“ 日本三大恋駅 ” を制覇したことになる。

小生もこの旅で、儂い恋、空しい恋、苦い恋の“ 旅の三大悲恋 ” を経験したのであった。

室蘭の郊外には「地球岬」があるのを思い出し、ここまでの乗車距離は約 3 万 Km に達しており、地球の 3 / 4 もの距離を乗ったことになり狭い日本も広くて大きい思った。

そして、地球のように丸い気持ちで狭い日本を旅をしたいと重ねて思った。